



第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会／太田黒保宏 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事
森脇 康 大分県教育庁社会教育課社会教育班 社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 五ヶ瀬風の子自然学校
—社会教育から発達支援・子育て支援・地域の未来づくりへの循環—

13:35~14:05

杉田 英治(宮崎県 NPO法人五ヶ瀬自然学校 理事長)

法人の設立は平成17年。鞍岡小学校の児童数は62名。その内57人が登録し、毎日50人の子どもが自然学校にやって来る。参加費は一日100円、十日以上は一律月1,000円。プログラムは「朗唱」、「宿題」、「異年齢の遊び」で構成している。社会教育ではじめた少年教育は発達を支援し、子育て支援にも連続している。コミュニティビジネス、グリーンツーリズムなどの模索も開始している。

2 無人島チャレンジキャンプの人間形成力
—出会い、発見、ゆめ体験in御五神—

14:10~14:40

仙波 英徳(愛媛県松山市 無人島チャレンジ実行委員会 実行委員)
田井 通臣(愛媛県松山市 無人島チャレンジ実行委員会 実行委員)

「不便」、「不足」、「不自由」がキー概念。目標は「自立」、「協調」、「社会性」の育成。方法論は異年齢による長期・宿泊・自然体験を核としている。無人島チャレンジの特徴は「自給自足」、「環境学習」、「環境造形」プログラム。効果の検証は愛媛大学との提携、保護者に対する報告会、実行委員会による「振り返り検証」を行なっている。期間は9泊10日、参加費2万円。最大の課題は財源の安定的な確保である。

ティータイム

14:40~15:05

3 デイ・サービスと子育て支援センターの併設によるコミュニティづくり
—支援活動は交流と活力の原点—

15:05~15:35

澤 健(岡山県赤磐市 NPO法人元気交流クラブ「たけのこの家」 理事長)

総人口約15,000人のニュータウンに、介護保険のデイサービス(定員17名)と会員制子育て支援センター(定員親子9組)の事業を併設した統合ケア。対象は概ね3歳以下の子どもとそのお母さん。現在は行政の委託事業として展開中。本年度は学校支援地域本部事業もスタートし、「子育て支援を通じたコミュニティづくり」をさらに展開している。

4 情報モラル育成のための産官学民連携による地域的教育実践
—インターネット活用実践教育「総理大臣賞」受賞までの経緯—

15:40~16:10

陣内 誠(佐賀県佐賀市 Kodomo2.0(ITサポートさが) 広報担当)

「ITサポートさが」はインターネットの諸問題に関心を共有する研究者、教育者、企業、行政など多様なメンバーで構成され、現在20名を越える。活動の目的は、情報教育を通じたデジタルデバイトの解消と健全なネット環境の実現である。サポートの対象はあらゆる年代の佐賀県民。具体的には行政やPTAと協力し、県内4カ所に中継してインターネット時代の家庭教育学級:「ネット時代の親力養成講座」など演習と講演を実施した。ネット活用の手法と内容が評価され第9回インターネット活用教育実践コンクールで総理大臣賞を受賞している。